



Handa Byouin Dayori

# 半田病院だより



～助産師の1日に密着しました～

半田病院で働く助産師の紹介動画の撮影を行いました。

仕事の流れについて紹介するだけでなく、なぜ助産師になろうと思ったか、助産師のやりがいなどについてもインタビューしています。

これから助産師を目指す学生さん、半田病院で出産を考えているお母さんなど、多くの方に観ていただきたいと思っています。

当院YouTubeアカウントにてアップしておりますので、ぜひご覧ください。チャンネル登録もよろしくお願いします！

半田市立半田病院 広報部会



# 助産師の役割

周産期センター 助産師 家田 美穂

当院の助産師のお仕事は主に分娩の介助、妊婦・褥婦や新生児の療養上のお世話です。一言で言ってしまうとそれだけなのですが奥が深い。分娩だって十人十色に違うし、育児のスタイルだってその人のサポート体制や家族構成、ライフスタイルによって全然違います。看護職全般に言えることですがその人にあった方法を考えることが必要になります。助産師の仕事で楽しいと感じる所はそこにあるとも感じています。「どんな風に関わったらお産が早く進むかな?」「痛みを少しでも和らげるにはこんな方法がいいかな?」「家に帰ってから困らないようにどんな方法で母乳やミルクをあげるといいかな?」「どんな風に抱っこすると赤ちゃんは落ち着いてくれるかな?」などその人にあった方法を考えます。そして考えたとおりに上手く回った時に喜びを感じます。

学生の頃に個性を考えなさいとよく言われました。その頃は個性って何となく考えていましたが、今になってその大切さが身にしみています。その人の考えや存在を尊重し、その人にあった方法で行う。そうでなければ続かないし、負担になるだけです。その人にあったベストの方法と一緒に考えていく事が助産師の大切な役割だと感じています。悩んでいるお母さんがいれば一緒に考え、悩み、苦しみ、少しでも楽になれるように考えます。喜んでいる人がいれば喜びを共有します。少子化が進み分娩件数が減少していき助産師という職業が必要とされなくなる時代がくるかもしれません。しかし、少しでも助産師を必要とくださる人がいるのであればお役に立ちたいと思っています。当院では外来・病棟に助産師がいます。話をしてみたい方がみえましたらいつでもお声かけください。



★周産期センターのInstagram始めました。

公式Instagram  
はこちら



@HANDA\_SHUSANKI

助産師の1日  
はこちら





# 当院での分娩を考えていらっしゃる 妊婦さんにご家族の皆様へ

産婦人科統括部長 医師 諸井 博明

半田病院産婦人科、統括部長の諸井博明と申します。

当院での分娩について、この場を借りて市民の皆様にお知らせいたします。

### ①半田病院でのお産について

当院は知多半島地域で唯一の地域周産期医療センターとして、これまで多くの分娩を担って参りました。地域の産院などから合併症のある妊婦さん、緊急手術や入院対応が必要な母児の受け入れを行っています。出生数減少の影響もあり、近年は年間分娩数は減っておりますが、妊婦の高年齢化や合併症のある妊婦さんの増加、新型コロナウイルス感染症などの新興感染症など、高度なケアを必要とするお産は増えてきています。当院は周産期専門医(妊娠や分娩の専門的知識を持つ医師)2名が在籍し、より安全なお産を実現できるよう、医師・助産師を中心に日々研鑽を積んでいます。

### ②合併症やリスクのない方のお産も受け入れています

「半田病院は病気がある妊婦さんでないと分娩できないのでしょうか」と質問を頂くことがあります。当院は特にリスクのない妊婦さんの分娩も受け入れています。妊娠は、合併症や重症化のリスクがなかったとしても、突然急変となることが起こりえます。半田病院は様々な診療科を併設した総合病院であり、「妊娠中に何か不測の事態が起こってもすぐに対応出来る」点で安心してお産に臨むことが出来る環境です。また、里帰り分娩もお引き受けしていますので、ご家族の方が里帰りを希望されるなどあれば、お問い合わせください。

### ③新型出生前診断(NIPT)を始めました

「生まれてくる赤ちゃんが先天的な異常を持っていたらどうしよう?」という不安をお持ちの妊婦さんは少なくありません。当院は令和6年4月より、母体血液による胎児染色体検査(NIPT)を開始しました。これはお母さんの血液を調べることで、赤ちゃんの染色体の本数の異常を知ることが出来る検査です。羊水検査のように子宮に針を刺すことなく、安全に検査を受けることが出来ます。検査ができるのは妊娠10~15週となります。ご希望の方は担当医までご相談ください。

### ④生まれてきた命を守るために

当院は3床のNICU(新生児集中治療室)を設置し、十分大きくなる前に出産となってしまった早産児、低出生体重児に対応しています。小児科医、産科医、助産師を始め、新生児蘇生講習会(NCPR講習会)を受講したスタッフが数多く在籍し、生まれてすぐの赤ちゃんの異常に素早く対応出来る体制を整えています。

### ⑤産後ケアにも力を入れています

「無事お産を終えることが出来たけど、このまま自宅で育てられるのが不安」「家族のサポートがなく、ワンオペ育児になるから大変そう」など、生まれたばかりの赤ちゃんとともに自宅で過ごすことへ不安を感じる方は多くいらっしゃいます。当院では助産師からの育児指導に力を入れており、退院後も乳房マッサージを受けたり、育児における不安をご相談いただくことができます。必要に応じて産後ケア入院にも対応していますので、詳細は助産師にご確認ください。

既報の通り、半田病院は令和7年4月に新病院に移転し、「知多半島総合医療センター」として新たな出発を致します。産婦人科病棟もLDR分娩室(陣痛室・分娩室・回復室が一体となった部屋)や分娩監視装置のデジタル化・集中管理を導入し、より安全で快適なお産を皆様に提供できるよう努力して参ります。当院の分娩についてお知りになりたいことがございましたら、お気軽にお問い合わせください。

# 高校生インターンシップ

半田病院では、地域のキャリア教育への貢献および将来の採用につなげるための取り組みの一環として、高校生インターンシップを実施しています。今年度は8月13日から8月21日までの7日間で、県内10校から約90名の生徒が参加しました。実際の医療現場を体験することで、働くイメージや病院の職場環境を身近に感じてもらえたのではないかと思います。

## <学生からの感想>

- ・日頃ネットなどでしかわからないことを、現場で体験することができ、とてもいい経験になりました。大学に入学する前に仕事を見ることができてとてもありがたかったです。
- ・放射線技師はレントゲンのイメージしかなく、そこまで患者と関わる機会はないと思っていたけれど、そうではないと分かりました。
- ・一人ひとり違うリハビリを行っていたので、理学療法士になるにはたくさんの事を勉強しなくては行けないと改めて感じました。患者さんのがんばる姿を見て、私も頑張る人のサポートをしたいとより強く思いました。
- ・患者さんとコミュニケーションをとる中で、お話しする声の大きさ、距離なども参考になりました。
- ・認知症の患者さんとお話しをしたり、患者さんの髪を乾かす、血圧測定をする、胃泡音を聞くなど色々体験ができました。

## <参加高校>

阿久比高校

愛知工業大学名電高校

大府東高校

知多翔洋高校

常滑高校

中村高校

日本福祉大学附属高校

半田高校

半田東高校

横須賀高校

●薬剤師●



●理学療法士●



●診療放射線技師●



●臨床検査技師●



●看護師●



# 当院はがん診療連携拠点病院です

## <がん診療運営委員会>

委員長 医師 小川 雅弘

がん診療連携拠点病院は、全国どこに住んでいても質の高いがん医療が受けられるよう、地域ごとに厚生労働大臣が指定した病院です。都道府県にはがん診療連携拠点病院、それぞれの医療圏に地域がん診療連携拠点病院が設置されています。愛知県では愛知県がんセンターががん診療連携拠点病院、知多半島医療圏では半田市立半田病院が地域がん診療連携拠点病院となっています。

がんは現在死因の1位で今後も増加すると予想されています。現在3人に1人ががんとされていますが近い将来2人に1人ががんの時代になると思われます。がんは決して珍しい病気ではなくよくある普通の病気なのです。

がんであっても早期診断・早期治療ができれば根治も期待できますが、手術のできない進行がんや再発のがんでは根治は難しく、死に至る疾患でもあります。また一口にがんといっても進行がんであっても乳癌や前立腺癌のように比較的経過が長いものから膵臓癌のように予後の短いものなど経過はがんの種類によって様々です。

ただ、がんの診断・治療法は画期的に進んでおり、ロボット支援下の手術、精度の高い放射線治療、薬物治療では分子標的治療薬、免疫チェックポイント阻害薬などの登場でがん患者の生存率や治療率は向上しており、がんを抱えながら生活する人々も増加しています。

半田病院は地域がん診療連携拠点病院として知多半島医療圏でのがん診療の中心的役割を果たし、診断、手術、放射線治療、薬物治療を行っています。またがんとともに生きる人を支えるべく緩和医療・がん相談支援センターでのがん相談や市民公開講座、出張緩和ケア相談、半田市内の中学校でのがん教育なども行っています。

## <がん相談支援センター紹介>

医療主事 犬塚 雅子

「がん相談支援センター」をご存じでしょうか？

「がん相談支援センター」はがんに関する相談窓口としてがん診療連携拠点病院に設置することが定められています。当院の「がん相談支援センター」には、相談支援センター基礎研修を修了した看護師1名と医療ソーシャルワーカー1名を配置し、患者さんやご家族、院内の医師や看護師その他のスタッフはもちろん、通院の有無を問わず地域の皆様からの相談にも対応しています。お電話での相談でも構いません。相談は秘密厳守の上すべて無料です。

相談内容としては、「とにかくよくわからない」「不安だ」などの悩みから、治療費や経済的なこと、治療内容、療養生活のこと、また仕事継続のことなど生活・治療・療養全般についてゆっくりとご相談いただけます。また患者さん同士がお話をする場として、「患者サロン(ほほえみの会)」や社会保険労務士による就労相談会も行なっています。

おひとりで抱え込まず、相談員にお話することで、少しでも不安のない療養生活が送られるようお手伝いいたします。「こんなこと相談しても大丈夫なのかな?」と思わず、お気軽にお声かけください。



5



# + 病院だより+ 新病院コラム その 18



新病院JV

今年10月末の新病院完成まで、残すところ1か月となりました。外装工事はほぼ完了し、これまで建物を覆うように設置されていた外部足場も、当初の計画通り8月中旬にはほぼ解体することができました。(写真1) 9月下旬の段階では、内装工事と外構工事の「最後の追い込み」といったところでしょうか。

さて、建物の完成に先立って、7月21日(日)に、普段では見られない建設現場の状況を見て、新病院をより身近に感じていただくために、市民の方を対象とした現場見学会を開催しました。連日の猛暑にもかかわらず、169名の方にご参加いただきました。はじめに、現場事務所で施工者から工事の概要説明をしたあと、工事現場を見学していただきましたが、今回の見学会では、外来エリアや病棟エリアのほかに、屋上のヘリポートや2階の工事中の手術室、この建物のために新たに開発した免震装置など、開院後はなかなか見ていただけないような場所もご覧いただきました。(写真2~4)

見学中も、参加された方から多くの質問をいただき、新病院に対する期待の大きさを直接感じることができました。

また、参加された方の中には、昭和57年(1982年)の現病院の移転時に当院で働いていたご夫婦もいらっしゃって、当時のご苦労を教えてくださいました。

皆様のご期待に応えるためにも、一層気を引き締めて取り組んでまいります。

令和7年4月1日の開院に向け、本体工事竣工後も、植栽工事や医療機器の搬入などが続きます。

皆様には今後も大変ご迷惑をおかけいたしますが、引き続きご理解とご協力のほど、よろしくお願いいたします。



写真1 現場全景写真(令和6年8月19日撮影)



写真2 現場見学会(工事概要説明)



写真3 現場見学会(免震装置)



写真4 現場見学会(病棟エリア)

## 半田市立半田病院 広報部会 (事務局 管理課)

〒475-8599 愛知県半田市東洋町2丁目29番地 TEL 0569-22-9881 FAX 0569-24-3253  
Eメール byouin@city.handa.lg.jp URL <https://www.handa-hosp.jp>



ホームページ



YouTube